

うま、午、馬。

せつかくなので今年の干支「午」に関連したものを、特にこの時期、皆さんにとつてなじみ深いうま——ということで、今回は「絵馬」をご紹介します。

絵馬は現代では願い事や願いがかなったことを記し、神社に納める木の板のことで、表面に馬の絵や神様の絵など神社によってさまざまな絵柄が描かれています。ではなぜこの木札を絵馬と呼ぶのでしょうか。元々は、神々に本物の馬を奉納していたのです。

続日本紀などを見ると、祈願のために生きた馬を奉獻していたことが分かります。この献上された馬は神々の乗り物とされ、神馬や神駒などと呼ばれます。白馬が多いのは、古くから白は神聖なものと考えられてきたからです。一方で、祈雨には黒馬、祈晴には赤毛などと祈願内容によって毛色が異なると

もいわれます。

そんな馬の奉獻ですが、時代の変遷とともに土製や木製の馬形に代わつていきます。さらに馬形に代わるものとして、板に馬が描かれた「絵馬」が奉納されるようになったのです。

絵馬の形が定着すると、形や図柄も変化し、馬の絵柄以外のものも奉納されるようになっていきました。さらに、大型化した扁額形式の絵馬、いわゆる大絵馬も見られるようになります。神社や場合によっては寺院にも多くの絵馬が奉納され、現在に残されています。色彩豊かな絵馬は芸術的にも素晴らしいものですが、地位のある人物の奉納であることが多く、その地域の歴史的背景を知ることができる資料でもあります。写真1は白馬、写真2は牛若丸（源義経）と天狗が描かれ、いずれも安瀬神社に奉納され



写真1 白馬が描かれた絵馬

た絵馬です。一見関係なさそうな牛若丸も、武芸や成功、厄よけなど非常に人気の題材でした。

一方で、小絵馬と呼ばれる吊懸形式の絵馬も広まっています。祈願したい際や年中行事の折々の際、病氣平癒や子どもに関することなどが多く祈願されました。この小絵馬が現代の形につながっています。絵柄も願い事に関するものや、語呂合わせのような遊び心があるものまでさまざまで、こちらは大衆文化や民間の習俗・信仰うかがえる興味深いものです。

ぜひ神社に参拝、祈願する際には絵柄にも注目してみてください。
(坂本恵衣)



写真2 牛若丸（源義経）と天狗の絵馬



学芸員
坂本 恵衣
Kei Sakamoto

専門は文化人類学。地域信仰について調べるとともに、石狩の人々の生活の中で宗教がどのように考えられていたのか、歴史の変遷などを研究する。

文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館